

<事例報告>

難波田城資料館の「ちょこっと体験」

やまのけんいち
山野健一(難波田城資料館)

はじめに

難波田城資料館では、平成 14 年度(2002)から学校週 5 日制が完全導入されたことに対応し、「学校の休日に親子や子どもたちが、古民家を中心とした公園施設を活用した、自由参加型のさまざまな体験事業をとおり、歴史・民俗・郷土について興味を持つことを目的に」ちょこっと体験を開催している。子どもから大人まで気軽に体験できるように、開催時間中であれば、事前申し込み無しで参加できるようになっている。本稿では、ちょこっと体験の概要と参加者からのアンケート結果に加え、コロナ禍への対応について紹介したい。

1) ちょこっと体験の概要

ちょこっと体験は毎週土曜日・日曜日、祝日に開催している。時間は、当初 1 か月は午前 10 時～午後 3 時としていたが、翌月から午後 1 時～3 時までとなり、現在まで続いている。

会場は、来園者の目に触れやすく、気軽に参加できるように、旧金子家住宅の座敷を主に使

用している。しかし、雨天や強風など悪天候の場合や内容によって資料館講座室や旧大澤家住宅の機織り部屋なども使用している。

体験の内容は、季節にちなむもの、昔の生活体験、昔の遊び体験、おもちゃの手作り、などさまざまなものがある。すぐに始められ、30 分以内でできることを目安としている。また、参加費は原則無料であるが、材料代が 50 円以上になる場合は負担していただいている(100～300 円程度)。工作に使う道具はハサミ、ノリ、セロハンテープ、両面テープ、カラーペン、色鉛筆などである。カッターナイフを使うことができれば、工作の種類を増やすことができるが、子どもたちが使い慣れていないことが多く、指を切るなど怪我をする可能性があるため、使用していない。カッターナイフが必要となる工作は、使わないでできるように作り方を適宜変更したり、カッターナイフを使わないと作れない部分は、あらかじめ材料の加工を済ませたりした上で実施している。

新規の体験は、職員を中心に、市民学芸員の協力を得ながら企画している。また、平成 25 年度(2013)から尚美学園大学総合政策学部ライ



よろいを着てみよう



七夕かざり作り

フマネジメント学科の講義「フィールドワークE(博物館学)」として、年に一度、大学生がちょこっと体験を企画・実施している(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施しなかった)。これまで実施してきた体験も、適宜デザインを追加したり、やり方・作り方を改良したりしている。

毎年継続して実施している体験もあるが、現在は実施していない体験もある。その理由として、指導者が確保できなくなったこと、材料の確保・準備が難しくなったこと、参加者の年齢層が変化したことなどがあげられる。

体験の指導は職員のほか、市民学芸員、各団体、市民などをお願いしている。参加者の受付が終わった後、材料を配布し(工作の場合)、や

り方や作り方などを口頭で教えている。参加者が多く、指導が行き届きにくくなることが予想される場合には、あらかじめ説明書を作成しておくことがある。その場合も、口頭での手助けが必要となる場合が多い。

実施する体験のメニューは、季節に合わせたもの、毎月定期的実施しているもの(第2・第4土曜日の「機織り」・第3土曜日の「いろいろの日」)、季節に関係なくいつでも実施できるものを組み合わせながら決定している。その内容は、広報富士見や市公式ホームページ、市内に設置されている掲示板のポスター(掲示は市民学芸員に協力をお願いしている)、館内で配布しているイベント情報(チラシ)などを使ってお知らせしている。

あねさま人形づくり	牛乳パックの船	すすきのみみづく	ペットボトル行灯
あぶりだし	牛乳パックぽっくり	墨流し	ペットンボ作り
編んで作るコースター	草花のしおりづくり	スライムを作ろう	マイ羽子板・コマ作り
糸でんわ	クリスマスカード作り	大豆の石臼ひき	万華鏡づくり
いろいろな風車で遊ぼう	クリスマスリース作り	たくほん	水でっぼう作り
いろいろの日	ごえもん風呂	竹とんぼ作り	味噌・醤油のおにぎりを作ろう
お年玉袋作り	木の実であそぼう	凧をあげよう	ミニかべかざり作り
鬼のお面作り	コマを作ってあそぼう	脱穀	ミニ正月飾り作り
お面をつけてみよう	小麦の石臼ひき	七夕かざり作り	ミニたこ作り
おりがみのおひな様	ゴムで飛ばす飛行機	つり堀なんぼた	ミニ手さげ袋
オリジナル羽子板・コマ作り	コリントゲーム	手描きうちわ	ミニほうき作り
柿渋で遊ぼう	笹舟流し	てるてる坊主作り	昔の明かり
かぎぐるま作り	座敷ぼうきではこう	天びんおけをかつごう	昔の遊び
紙コップロケット	ザリガニつり	唐箕体験	昔の絵に塗り絵
紙漉き	七輪で餅焼き	とびっちょ	昔の着物を着てみよう
紙でっぼう	自転車紙芝居	トントン紙ずもう	昔の道具で計ろう
紙ねんどのまゆ玉飾り	しの竹でっぼう	縄ない	麦の石臼ひき
紙のかぶと作り	ジャンボ郷土かるた	縄ない機実演	麦わら細工
紙のこいのぼり作り	ジャンボすごろく	機織り	麦わらのはり絵
紙のバランスとんぼ	ジュズダマの腕輪	パッチンなんぼった	メンコ作り
紙のミニ手さげ袋	シュロの葉のハエたたき	パラシュート作り	紋切り
紙のミニよろい作り	シュロの葉の布団たたき	ハンカチの藍染め	やぶさめごっこ
紙ひこうきを飛ばそう	シュロの葉バツタ	ひな祭りカード	よろいを着てみよう
紙ふうせん	正月あそび	フィルムケースのおひな様	わたくり
キッチンペーパーのマスク作り	しょうのう船で遊ぼう	プラ板アクセサリー	和風メモ帳
木のパチンコ	新聞紙グローブ	ブンブンごま	わらで遊ぼう
キャップのコマで遊ぼう	新聞紙弓矢	ヘチマのたわし作り	わりばし鉄砲

これまで実施してきたちょこっと体験の例

2) 参加者からのアンケート結果

平成 26 年度(2014)から受付を兼ねて、ちょこっと体験参加者に簡単なアンケートを実施している。令和 2 年度(2020)は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、それ以前と体験の実施方法や回数、アンケート形式などを大幅に変更したため(後述)、ここでは令和元年度(2019)までについて述べる。

アンケートでは、居住地、人数、体験をなにで知ったかを尋ねている。居住地は市内の場合は町名、市外の場合は自治体名(さいたま市は区まで)を聞いている。担当している職員が記

入するが、指導に手を取られている時には参加者に記入をお願いする場合もある。人数は実際に体験する人だけでなく、一緒に来た保護者なども含めた人数である。子どもだけではできない場合も多く、保護者に手伝いをお願いしているため、人数に含めている。なにで知ったかについては、主な広報媒体 4 種類は選択肢としてあげている。ネットは富士見市公式ホームページのみを対象とし、それ以外は「その他」に記入している。市内掲示板は富士見市が設置している掲示板のポスターを対象とし、「ららぽーと富士見」内の掲示板のポスターは「その他」として区別している。

R02/ / () ちょこっと体験「		」参加者受付簿 天気()	
どこから?	人数	なにで知りましたか	
例 市内(鶴瀬東 地区) 市外()	3	広報 ネット 市内掲示板 チラシ 今日来てたまたま (その他) (知人から)	
例 市内(地区) 市外(さいたま市桜区)	2	広報 ネット 市内掲示板 チラシ (今日来てたまたま) その他()	
1 市内(地区) 市外()		広報 ネット 市内掲示板 チラシ 今日来てたまたま その他()	
2 市内(地区) 市外()		広報 ネット 市内掲示板 チラシ 今日来てたまたま その他()	
3 市内(地区) 市外()		広報 ネット 市内掲示板 チラシ 今日来てたまたま その他()	
4 市内(地区) 市外()		広報 ネット 市内掲示板 チラシ 今日来てたまたま その他()	
5 市内(地区) 市外()		広報 ネット 市内掲示板 チラシ 今日来てたまたま その他()	
28 市内(地区) 市外()		広報 ネット 市内掲示板 チラシ 今日来てたまたま その他()	
29 市内(地区) 市外()		広報 ネット 市内掲示板 チラシ 今日来てたまたま その他()	
30 市内(地区) 市外()		広報 ネット 市内掲示板 チラシ 今日来てたまたま その他()	

ちょこっと体験参加者受付簿 A4 版 1 枚で、30 組受付できる。

表 1 ちょこっと体験実施状況(令和元年度まで)

年度		平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	合計
総数	総実施回数(回)	118	119	113	112	112	104	678
	総参加人数(人)	3,235	3,193	3,678	3,481	2,940	2,501	19,028
	1回あたりの参加者(人)	27.4	26.8	32.5	31.1	26.3	24.0	28.1
アンケート実施分	実施回数(回)	25	70	76	79	78	78	406
	アンケート実施率(%)	21.2	58.8	67.3	70.5	69.6	75.0	60.4
	参加人数(人)	859	2,345	2,877	2,926	2,329	2,119	13,455
	1回あたりの参加者(人)	34.4	33.5	37.9	37.0	29.9	27.2	33.1
	参加組数(組)	312	801	943	970	799	708	4,533
	1回あたりの組数(組)	12.5	11.4	12.4	12.3	10.2	9.1	11.2
1組あたりの参加者(人)	2.8	2.9	3.1	3.0	2.9	3.0	3.0	

表1は、ちよこつと体験の実施回数などを集計したものである。体験参加者数は資料館の日誌に毎回記録しているため、アンケートを実施しなかった分も人数だけは把握することができる。1年間の開催数は平均113回である。土曜日・日曜日・祝日・振替休日の日数に違いがある、1日に2種類の体験を実施することがある、他の主催事業と重なる時には実施しないことがある、といった理由で年によって変動がある。参加人数の平均は28.1人である。

アンケート実施回数は、初年度の平成26年度を除くと、平均76回である。団体に実施をお願いしている機織り体験(年間20回)や市民学芸員が実施する「いろいろの日」(年間12回)

は人数だけを記録していること、材料費が必要な体験には別書式の受付簿を使用していることなどから、総実施回数に対するアンケート実施率は68.3%となっている。

表2は、参加者の居住地を集計したものである。平成26年度から令和元年度までの平均は、市内が39.1%、市外が56.6%、不明が4.3%となっている。埼玉県内でみると、15~28市町と年によってばらつきがあるが、平均21市町から参加者があった。中でも、富士見市の隣接市町である、ふじみ野市・三芳町・志木市・さいたま市・川越市からの参加者が全体の34.9%を占めている。さらに、隣接市町の南に位置している所沢市・朝霞市・新座市・和光

表2 ちよこつと体験参加者の居住地(令和元年度まで)

年度	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	合計	
市内	南畑地区	27 (3.1)	190 (8.1)	233 (8.1)	211 (7.2)	246 (10.6)	199 (9.4)	1106 (8.2)
	水谷地区	72 (8.4)	207 (8.8)	272 (9.5)	179 (6.1)	255 (10.9)	214 (10.1)	1199 (8.9)
	鶴瀬地区	112 (13.0)	462 (19.7)	517 (18.0)	567 (19.4)	427 (18.3)	373 (17.6)	2458 (18.3)
	地区不明	128 (14.9)	80 (3.4)	55 (1.9)	131 (4.5)	36 (1.5)	73 (3.4)	503 (3.7)
	小計	339 (39.5)	939 (40.0)	1077 (37.4)	1088 (37.2)	964 (41.4)	859 (40.5)	5266 (39.1)
市外	埼玉県(隣接)	286 (33.3)	811 (34.6)	1067 (37.1)	985 (33.7)	776 (33.3)	773 (36.5)	4698 (34.9)
	埼玉県(南部)	94 (10.9)	298 (12.7)	366 (12.7)	344 (11.8)	232 (10.0)	178 (8.4)	1512 (11.2)
	埼玉県(その他)	19 (2.2)	104 (4.4)	99 (3.4)	100 (3.4)	84 (3.6)	54 (2.5)	460 (3.4)
	東京都	29 (3.4)	109 (4.6)	171 (5.9)	239 (8.2)	157 (6.7)	111 (5.2)	816 (6.1)
	その他	2 (0.2)	20 (0.9)	34 (1.2)	24 (0.8)	31 (1.3)	12 (0.6)	123 (0.9)
小計	430 (50.1)	1342 (57.2)	1737 (60.4)	1692 (57.8)	1280 (55.0)	1128 (53.2)	7609 (56.6)	
不明	90 (10.5)	64 (2.7)	63 (2.2)	146 (5.0)	85 (3.6)	132 (6.2)	580 (4.3)	
合計	859	2,345	2,877	2,926	2,329	2,119	13,455	

※ 単位は人。括弧内は各年度の合計に対する割合で、単位は%。
埼玉県(隣接)はふじみ野市・三芳町・志木市・さいたま市・川越市、埼玉県(南部)は隣接市町の南側の所沢市・朝霞市・新座市・和光市・戸田市からの参加者数を集計。

表3 ちよこつと体験を知ったきっかけ(令和元年度まで)

年度	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	合計
広報	41 (4.8)	241 (10.3)	186 (6.5)	248 (8.5)	142 (6.1)	136 (6.4)	994 (7.4)
ネット	45 (5.2)	214 (9.1)	275 (9.6)	316 (10.8)	126 (5.4)	140 (6.6)	1116 (8.3)
市内掲示板	0 (0.0)	36 (1.5)	42 (1.5)	20 (0.7)	33 (1.4)	17 (0.8)	148 (1.1)
チラシ	5 (0.6)	48 (2.0)	149 (5.2)	114 (3.9)	47 (2.0)	36 (1.7)	399 (3.0)
小計	91 (10.6)	539 (23.0)	652 (22.7)	698 (23.9)	348 (14.9)	329 (15.5)	2657 (19.7)
たまたま	328 (38.2)	1037 (44.2)	1081 (37.6)	1339 (45.8)	1475 (63.3)	1231 (58.1)	6491 (48.2)
その他	118 (13.7)	358 (15.3)	572 (19.9)	349 (11.9)	168 (7.2)	106 (5.0)	1671 (12.4)
無記入	322 (37.5)	411 (17.5)	572 (19.9)	540 (18.5)	338 (14.5)	453 (21.4)	2636 (19.6)
合計	859	2,345	2,877	2,926	2,329	2,119	13,455

※単位は人。括弧内は各年度の合計に対する割合で、単位は%。

市・戸田市からの参加者が全体の 11.2 % を占めている。市外でも近隣在住の方が多く参加(来園)していることがわかる。

参加人数は平成 28 年度にピークとなっている。そこを境に市内の割合が増加し、市外が減少する傾向が見られる。また、表に現れていない変化として、事前に準備する工作材料の増加がある。平成 26 年(2014)以前は、30 組を準備しておくとして十分対応することができていた。しかし、平成 27 年(2015)4 月に「ららぽーと富士見」が開業した頃から、次第に不足するようになり、体験実施時間中に急遽材料を追加することが多くなった。その結果、50 組を準備するようになった。単純な参加者数の増加だけでなく、自ら体験をする人数が増加していると考えられる。また、体験をする子どもの年齢層も低下する傾向が見られる。小学校 4 年生以上が多かったが、次第に幼稚園・保育園児～小学校 1 年生程度が多くなってきた。このような変化にあわせて体験内容の検討、保護者に手伝いを求めるといった対応が必要になってきた。

表 3 は、ちょこっと体験をなにごとで知って参加したかをまとめたものである。広報富士見・富士見市ホームページ・市内掲示板のポスター・館内配布のチラシなど見て、事前に体験内容を知って参加した方は 19.7 % とどまる。一方、公園に来てたまたま体験を実施していることを知って参加した方は 48.2 % と全体の約半数に達する。その他と答えた参加者の回答では、「ららぽーと富士見」のポスターや学校のお知らせを見て体験内容を知って来園したという場合もあるが人数はそれほど多くない。その一方で、家族や知人に聞いた、いつも来園している、前に来園したことがある、社会科展など資料館の別のイベントに来たついでに参加した、といった回答が多かった。これらは、当日たまたま知って参加した方と、実質的に同様といえる。

たまたまと答えた参加者は、古民家や昔のおもちゃ遊びを目的に来園した参加者が多いと考えられ、開催時間中であれば事前申し込み無し

で自由に参加できるという、ちょこっと体験の特徴が現れているといえる。また、当日園内ガイドを担当している市民学芸員が呼び込みを行ってくれることもあり、たまたま知って参加した方を増やした要因のひとつと考えられる。

3) コロナ禍での中止と再開

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、富士見市では令和 2 年(2020)2 月 26 日からイベントが中止となり、3 月 2 日から公共施設が休館となった。ちょこっと体験も中止となり、資料館・古民家も臨時休館となった(公園は通常通り開園)。

その後、感染拡大防止対策を施した上で、6 月 2 日に再開した。ちょこっと体験も参加者および職員の感染リスクをできるだけ避ける対策をとり、再開することとなった。これまでとの主な変更点は以下の通りである。

- ・開催日は不定期とする。
- ・開催時間は従来通り午後 1 時～3 時であるが、30 分ごとの総入替え制にして、1 日 4 回実施する。
- ・1 回に 3 組(4 回で計 12 組)、1 組 4 人までに制限する。
- ・受付は 12 時 50 分から開始する。
- ・新型コロナウイルス感染者が出た際に連絡をとれるよう、申込書に参加者の氏名・代表者の住所・電話番号などを記入してもらう。
- ・入室前に手洗い・手指消毒をしてもらい、検温を実施する。
- ・参加者と指導者ができるだけ距離をとり、かつ最小限の指導で体験を実施できるようにするため、小学校 3 年生以下は保護者の手伝いを必須とする。それ以上でも、できるだけ手伝いを求める。
- ・消毒実施のため、会場は原則として講座室を使用する。また、入室する人は参加申込書に氏名を記入した人のみとする。

- ・体験の内容は20分で終了できるものとし、次の回までの10分間で会場・道具などの消毒を実施する。
- ・少ない道具を共用する体験(はたおり、わたくり、トントン紙ずもう等)は当分の間、実施しない。
- ・体験の指導は職員だけで行い、市民学芸員や団体などの手伝いはしてもらわない。
- ・材料の配布は参加者が席に着いた後、職員が行う(これまでは、複数の色やデザインなどがある場合、参加者自身で選んでもらった)。

以上のような対策を決めた後、6月13日に再開した。6月は試行的な意味もあり、13日と27日の2回実施した。7月以降は原則週1回実施している。日曜日は職員が半数勤務であるため、指導係や受付係を確保しやすい土曜日に開催している。しかし、他の主催事業や会場確保

の関係で実施しない場合や、土曜日の代わりに日曜日・祝日に実施する場合がある。

令和元年度(2019)までは午後1時の体験開始と同時に受付を開始したが、参加申込書の記入や入室前の手指の消毒、検温に時間を要するため、受付開始時刻を12時50分とした。また、1回の参加組数を3組までに制限したため、受付後、体験を行うまでに待ち時間が発生することが予想された。受付係に確認しなくても、参加者自身がどの時間帯であるか把握できるように、参加申込書から申込控を切り離して参加者に渡すようにした。

1組は家族・友人・知人のグループとしている。4人を超える場合は複数の組に分けている。逆に4人以下で人数に余裕がある場合でも、新型コロナウイルス感染を予防する観点から、無関係の複数のグループをまとめること(相席)はしていない。

ちよこつと体験参加申込書					ちよこつと体験申込控		
受付番号	1	日時	12月26日 午後1時~1時20分			受付番号	1
	氏名	健康状態	氏名	健康状態		日時	12月26日
代表者							午後1時
代表者の住所							
電話番号							
何で知りましたか	広報 ネット 市内掲示板 チラシ 今日来てたまたま その他()						
<ul style="list-style-type: none"> ・氏名の欄には、会場に入る方(4人まで)のお名前をお書き下さい。 ※記入されていない方は入場できません。 ・感染リスクを下げるため保護者の手伝いをお願いします。 ※小学3年生以下は保護者の手伝いが無いと参加できません。 ・記入していただいた内容は、本施設で新型コロナウイルス感染が発生した場合にのみ使用します。 ・この申込書は2週間後に廃棄します。 ・記入後、右の控を切り離し、申込書を受付にお渡しください。 							
<ul style="list-style-type: none"> ・上記の時間に、会場にご案内します。 ・体験は一斉に開始します。遅れると参加できなくなるので、ご注意ください。 ・密集・密接を避けてお待ち下さい。 ・事前に手洗ひまたは手指の消毒をお願いします。 							

参加申込書 各時間帯の組数を管理するため日時をあらかじめ記載し、開始時刻を過ぎたものは使わない

1日の参加組数および1組あたりの人数は、会場の座席配置や、令和元年度(2019)までのアンケート結果を参考に決定した。再開後、12月26日まで28回実施したが、定員に達して参加を断った例は2回にとどまる。現在の組数・人数の設定で、概ね参加希望に応えられているといえる。

参加者の傾向も令和元年度までとは一変した。1回あたりの参加者数は18.6人で10人ほど減少した。居住地は、市内が56.5%、市外が42.1%で、市内と市外の割合が入れ替わった。市外の埼玉県内は隣接5市町と和光市・所沢市の合計7市町と激減した。

また、広報やホームページなどで体験内容を事前に知って参加した割合が増加した(19.7%→45%)。その一方で、当日たまたま知って参加した割合が減少した(48.2%→38.9%)。特に「広報富士見」を見て知った割合が4倍以上に増加している(7.4%→30.4%)。

原則として週1回開催しているが、曜日が変わることがあり参加する前に開催日を確認する必要があること、6月に再開館したが感染拡大防止のため古民家の座敷見学再開は11月15日まで遅れたこと、昔のおもちゃは消毒が行き届かないため利用を中止したままであること、などがこうした変化の要因と考えられる。再開館後に、昔のおもちゃは使えないのか、いつになったら使えるのか、といった質問を来園者から受けた。昔のおもちゃで遊ぶということが公園の来園動機になっていることが窺える。

座敷見学再開後の1回あたりの参加者は、市内・市外とも増えているが、市外がより大きく増加している。また、たまたま参加した人の増加が目立ち、事前に知って参加した人と同数になった。令和3年(2021)1月8日から2回目の緊急事態宣言が発令され、ちょこっと体験は再び中止となった。そのため、座敷見学再開後は6回しか実施しておらず傾向をつかむには回数が少ないが、見学再開をきっかけに、コロナ禍以前の傾向に戻り始めたとも考えられる。

表4 ちょこっと体験実施状況(令和2年度)

	6/13~11/8	11/21~12/26	合計
実施回数(回)	22	6	28
参加人数(人)	378	144	522
1回あたりの参加者(人)	17.2	24.0	18.6
参加組数(組)	140	51	191
1回あたりの組数(組)	6.4	8.5	6.8
1組あたりの人数(人)	2.7	2.8	2.7

表5 ちょこっと体験参加者の居住地(令和2年度)

	6/13~11/8	11/21~12/26	合計	
市内	南畑地区	36 (9.5)	3 (2.1)	39 (7.5)
	水谷地区	38 (10.1)	28 (19.4)	66 (12.6)
	鶴瀬地区	144 (38.1)	46 (31.9)	190 (36.4)
	地区不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	小計	218 (57.7)	77 (53.5)	295 (56.5)
市外	埼玉県(隣接)	127 (33.6)	65 (45.1)	192 (36.8)
	埼玉県(南部)	9 (2.4)	2 (1.4)	11 (2.1)
	埼玉県(その他)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	東京都	15 (4.0)	0 (0.0)	15 (2.9)
	その他	2 (0.5)	0 (0.0)	2 (0.4)
	小計	153 (40.5)	67 (46.5)	220 (42.1)
不明	7 (1.9)	0 (0.0)	7 (1.3)	
合計	378	144	522	

※単位は人。括弧内は各期間の合計に対する割合で、単位は%。

埼玉県(隣接)はふじみ野市・三芳町・志木市・さいたま市・川越市、埼玉県(南部)は隣接市町の南側の所沢市・朝霞市・新座市・和光市・戸田市からの参加者数。

表6 ちょこっと体験を知ったきっかけ(令和2年度)

	6/13~11/8	11/21~12/26	合計
広報	118 (31.5)	42 (28.6)	160 (30.7)
ネット	33 (8.8)	13 (8.8)	46 (8.8)
市内掲示板	6 (1.6)	0 (0.0)	6 (1.1)
チラシ	20 (5.3)	3 (2.0)	23 (4.4)
小計	177 (47.2)	58 (39.5)	235 (45.0)
たまたま	145 (38.7)	58 (39.5)	203 (38.9)
その他	21 (5.6)	19 (12.9)	40 (7.7)
無記入	32 (8.5)	12 (8.2)	44 (8.4)
合計	375	147	522

※単位は人。括弧内は各期間の合計に対する割合で、単位は%。